

# 平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 59

政策体系	44	事業分類	ソフト事業	所管部局	美山支所 地域総務課
会計	一般会計	科目	2.総務費 - 1.総務管 - 6.企画費 現年		
事業名	パートナーシップ推進事業				
細事業名	大学等連携協力事業				
				評価表作成者	美山支所 地域総務課 井上 操

## 1. 事業の概要

南丹市と協定を締結している佛教大学との連携により、まちづくりを考えるフォーラムの開催や、大学生の受け入れを行う。

## 2. 事業の目的と必要性

### ①施策で目指す目標との関連付け

大学との連携により、発展的な新たなまちづくりを考える機会を作る。

### ②事業を実施する必要性

学生等の意見を聞くことにより、新たな発想が生まれる。また、地域との交流を深め地域行事への学生の参画を促進するため、大学との連携事業を行う必要がある。

## 3. 事業費の推移

		単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額		千円	249	482	193	149	150	200	200
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	249	482	193	149	150	200	200
職員等の従事人員		人/年	—	0.25	0.20	0.19			
人件費		千円	—	1,715	938	952			
事業費総額		千円	—	2,197	1,131	1,101			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

佛教大学連携会議費	13,566円
美山フォーラム開催経費	135,485円

## 5. 事業結果の概要

大学や学生との連携により、新たなまちづくりへの提言や事業を実施することが出来た。

## 6. 活動の詳細

<b>インターシップ受入</b>		
<p>●インターシップ生受入 社会人として働くための知識・経験を積むために、実際の職場において体験をする学生を受入れた。22年度においては美山支所業務の事務補助、管内の地域振興会主催事業等の業務補助を通し研修。</p>	<p>受入日 8月16日～27日（うち、8月21日を除く） 11日間</p>	<p>2名の学生を受入れ 管内6施設に勤務</p>
<b>ゼミ研修</b>		
<p>●新入生歓迎行事 平成22年度 社会教育学部公共政策学科新入生研修を実施。南丹市・美山町の概要等について研修。併せて美山管内4施設を見学。</p>	<p>開催日 4月24日</p>	<p>学生160名を受入れ</p>
<b>フィールドワーク実習</b>		
<p>●フィールドワーク実習 美山キャンパスとして位置づけられている美山町内において、学生が学習・研修の場として地域の各施設、活動団体等を訪れる。研修目的に沿った内容で、聞き取り調査・体験をし、美山の生活実態、観光、福祉、コミュニティビジネスを学ぶ。聞き取り調査のデータについては教材として活用されている。</p> <p>●学生成果発表会 フィールドワーク学習において調査・研究した内容をデータにまとめ、学生の視点からまちづくりへの提言を行う発表会を実施。</p>	<p>●フィールドワーク実習 6月2回、7月1回、 11月3回、12月1回 ●発表会 3月3日</p>	<p>●7クラスの131人受入れ ●5班（18名）の学生から報告、発表</p>
<b>美山フォーラム</b>		
<p>●美山フォーラムの共催 第5回目となる『美山フォーラム』を南丹市・美山まちづくり委員会・佛教大学の共催で開催。食の総合プロデューサー 金丸弘美氏の基調講演、地域で活躍する3人のパネラーを交えパネルディスカッションを実施。</p>	<p>開催日 2月19日</p>	<p>南丹市民 約160名参加</p>

## 7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

佛教大学と包括連携協定を締結して7年目をむかえ、今日までの地域の活性化をめざす調査・研究活動や地域との交流活動、ふるさと共援事業などを通じて市民に認知されてきた。  
今日までの教育学習活動の成果をもとに、地域の活性化に必要な事業化などについて提言頂くなどのステップアップした取り組みが必要である。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成22年度の所属長評価

佛教大学との包括連携協定の締結から、実績を積上げる中で、地域づくりの視点から市民に認知されてきている。地域課題の解決のためには、大学に一層斬新な提起と具体的な事業化を期待する声も大きく、ステップアップする新たな方向付けも必要である。

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点  
地域づくりのために、どう具体的に連携を図っていくのか議論した。
- ②当該事業のアピール事項  
少子化により地域に同年代がいない今日、学生の若い力と発想で地域の元気が再生される。
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
提案、提言のあった地域づくりを具現化していくための財源確保。